

平成三十年 論語に学ぶ人間学セミナー 第八回

本年の残り回数も今回を入れて三回となりました。西はりまライオンズクラブ主催の論語セミナーが十年目となり、参加者の中からこれだけは続いているという声が聞こえるようになってきました。

始まりは、「国歌斉唱」。

以前に三木英一先生から教えていただいた「君が代」の正しい歌い方で《さざれ～石の～》を《さざれ》と《石》の間に息継ぎをしないことを意識すると、息が続かなくなります。三木先生は日ごろ鍛えられている詩吟とダンスの成果か、最もきれいな大きな声で歌われます。今回も新しい参加者をお迎えしてのセミナーとなりました。

■ 仮名論語 微子 第十八

この編には、「子曰わく」という言葉が少なく、孔子が理想とした「徳によって治める」という徳治政治が行なわれておらず、乱れた時代に隠者となって世を捨てて生きる人の言葉が多くみられます。

夫子 憊然 として 曰わく、鳥 獸 は 與 に 群 を 同 じ く
す べ か ら ず。吾 斯 の 人 の 徒 と 與 に する に 非 ず して
誰 と 與 に か せん。天 下 道 有 ら ば、丘 は 與 に 易 え
ざる なり。

孔子先生はがっかりして言われた。

「鳥や獣とは共に生活することはできない。私は、斯の世の人と共に生活しないで誰と共にしようか。もし、天下に道が行なわれてよく治まっておれば、私も何も改めようとししないのだ。

■ 大 学

所謂 天 下 を 平 ら か に する には、その 國 を 治 む る
に 在 り と は、上 老 を 老 と して 民 孝 に 興 り、上
長 を 長 と して 民 弟 に 興 り、上 孤 を 恤 み て 民
倍 か ず。是 を 以 て 君 子 に 絜 矩 の 道 有 る なり。

「天下を平らかにするには、その国を治むるに在り」とあるのは、君主が老人を老人として心から大切にすると、民は自ら自分の親に孝養を励むようになる。君主が年長者を年長者として大事にすると、民は自ら、兄や姉に素直に従うようになる。君主がみなしごをあわれんでよく面倒を見ると、民は心から従うようになる。そこで君主には君主としてのよるべき尺度(基準)となる道があるわけである。

「黎矩の道」と「忠恕」について三木先生から解説をしていただいて、単純に文を読むだけではわからない深い意味が分かるような気がしました。また、致知出版社の創刊四十周年の記念に出版された「言葉は力」の中からご縁がつながった滋賀の女性のお話があり、前向きに生きる生き方というものを感動とともにその人生から教えていただいたようでした。

■ 「心豊かに老いを生きる」(三木 英一 著)

今回は「日日是好日」(にちにちこれこうにち)、よく目にする言葉ですが、三木先生の解釈として、新約聖書にも同じような教えがあると分厚い聖書の本から英文を示してくださいました。

逆境の中でも天の与えた試練ととらえ、前向きに生き、順境の中では得られない価値を見出して生きていく心得を説かれたものであると教わりました。

So do not be anxious about tomorrow, tomorrow will look after itself.
Each day has troubles enough of its own.

[The New English Bible]
Oxford, Cambridge Univ. Press

人間学セミナーは自身を磨く為の良い機会になると思います。皆様のご参加お待ちしております。
次回 平成三十年年度 第九回は、十一月十四日(水)午後六時三十分からです。